



安芸市民病院だより

理念

私たちは 患者様の立場にたって、
信頼され 満足される、
地域に密着した医療を提供します。



「凍てつく湖面」
知賀 結の会 寺田 博司さん
撮影地：北広島町(聖湖)

軽病息災



知賀学区町内会
会長 直井 整四郎

初めに、コロナ対応に全力を傾けて下さっている医療関係者の皆さまにあらためて感謝申し上げます。

無病息災とは昔からある言葉ですが、高齢になりますと人間誰しもどこかにガタが来るものです。一方、健康だとばかり思っているにもかかわらず、病気と診断される生活習慣病や認知症になっている場合もあります。私は「無病」は無理としても、「軽病息災」が一番との信念を持っています。つまり、軽い病気を抱えていればそれに関心を向け、体調管理に用心し、その結果健康で長生き出来るのではと思っています。早期発見・早期治療に尽きるのではないのでしょうか。発見・治療が遅れるほど、手術や高額治療により、健康保険財政を悪化させ、若い人への負担を大きくする「社会に潜む大きな病」となるのです。

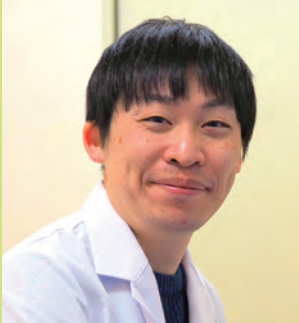
私事ですが、血圧が高く在職中は通院がしやすいと、企業の病院や会社近くの医者にかかっていましたが、退職してからは「やはり地元」との思いで、2ヶ月に1回本病院にお世話になっていきますし、血圧以外に悪い所はなくても気軽に相談させてもらっています。

本病院は、以前国立病院畑賀療養所であったのが、廃止問題が持ち上がり、地域医療を大切にしようとして、先輩方が運動を展開した結果、現在の形に落ち着き存続に至ったという経緯を持っています。令和元年秋、病床の空き率が高いということで、厚労省が再び、本病院を統廃合の対象病院にリストアップしました。私たちには寝耳に水で、統合化反対運動でも起こさなければ、と思った矢先コロナの大きな波が押し寄せ、どこかへ吹っ飛ばしてしまいました。現在コロナ感染が拡大し、「医療崩壊」が危惧されていますが、厚労省の方針に沿って病床削減・病院統廃合が進められていたら、大変なことに。人間の健康や医療は決して効率のみで図られるものではありません。いかなる事態になっても安心して受診・治療が受けられる地域医療を大切にす体制を維持すべきものなのです。

平成30年の西日本豪雨で畑賀地区も大きな被害を受けましたが、本病院も多くの避難者を収容していただきました。医療だけでなく、災害対応でも住民の心強い存在となっています。災害も健康も予防と備えが一番です。今後とも、ご協力をいただき、より一層住民の安心・安全を図って行くことをお願いするものです。

専門外来シリーズ

認知症外来



広島大学病院 脳神経内科
金谷 雄平

この度、毎週金曜日午後に脳神経内科／認知症外来を行わせていただく事となりました、金谷雄平と申します。病気としては認知症診療を中心にパーキンソン病などの神経疾患を含めて地域のみなさまにお役にたてるよう頑張ってきたと思います。今後ともよろしくお願い致します。

■診察時間：毎週金曜日13:30～17:00（予約制）

令和2年度・小児インフルエンザ予防接種の報告

新型コロナウイルス感染対策の為、例年との変更点が多く、大変ご不自由をおかけしました。皆さまのご協力のもとで、無事に終了することができました。

今年度は延べ871名の子どもさんが接種に
来られました。みんなよく頑張りました！

会場には子供さんの緊張をやわらげようと
スタッフが毎年イラストを描いています。



安芸医学会会長賞

昨年12月に開催された第37回安芸医学会で地域包括ケアシステム推進部の活動を報告しました。地域包括ケアシステム推進部は在宅をサポートする専門部門として平成31年4月に新設されました。役割として訪問診療・往診の調整、退院直後などを中心とした訪問看護、また地域の在宅スタッフとの連携・調整も行っています。

今後も院内から地域に広げた活動を学会で発表していきたいと思ひます。

(地域包括ケアシステム推進部 副主任看護師 白石 真里)



絵画をご寄贈いただきました

中島百合枝さんより、絵画(青木乃里子 作)を
ご寄贈いただきました。

1階売店前廊下に掲示しておりますので、
ご来院の際にはご鑑賞ください。



認定看護師の紹介

感染管理認定看護師

令和2年から当院に入職しました。私は、感染管理の基本となる重要項目の一つとしても手指衛生が挙げられると考えています。手指衛生は、各々の持続的な行動にするには、多角的に戦略を講じる必要があります。

感染管理認定看護師の役割は、組織横断的に遂行することです。当院に訪問される皆さまが感染管理上、安全な医療や看護を受け、安心した生活を送ることができるよう共に努めて参りたいと思います。



医療安全管理室 主任看護師
島中 延枝

緩和ケア認定看護師

この度緩和ケア認定看護師の資格を取得しました合野です。私は、これまで緩和ケア病棟で患者さんやご家族の苦痛に対する緩和ケアに携わって参りました。緩和ケアは未だに「緩和ケア=終末期」というイメージがあると思います。実際私自身もそうでした。しかし緩和ケアは、がんの診断期から終末期までのどの時期にも必要なケアであり、その人らしく生活できるようケアを提供していくのが大きな役割としてあります。

患者さんの価値観や生きがいを大切に、病気だけをみるのではなく、その人の人生とその家族を見つめ、看護師だけではなく多職種と連携し、生活の質の向上に向けて、その人らしく過ごせるよう寄り添っていくことを心がけ支援していきたいと思います。



緩和ケア病棟 主任看護師
合野 由美

病院車の紹介

当院には、病院車が4台あります。訪問診療や訪問看護等に2台がフル稼働しています。また、通院困難な透析患者さんの送迎にも車を活用しています。

今日も、地域をさっそうと走っています。



